



内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」「学んだこと」「行動したこと」を皆様にお伝えする紙上ブログです

先日写真を取り直しました。向きも変えてみました。→→→



災害に強いまちづくりへの提言

区民が最も望んでいる施策とは

ご存知ないかも知れませんが千代田区では、区民の意識や生活実態、区政に対する要望を把握し、政策立案や行政運営を行う為に「千代田区民世論調査」を50年前から行っています。実は私も区議会議員を目指そうと思いついた15年程前に世論調査の存在をしり、以降毎年熟読させて頂いています。

調査は、年代別や居住地区別、職業別等々、細かい属性に分類され行われており、例えば千代田区では、一戸建てにお住まいの方は6.5%、外国籍の方は2.1%、千代田区生まれですとお住まいの方は8%、町会加入率は32.6%等々、興味深いデータから千代田区の実態を把握することができます。そのなかで私が特に注視しているのが「区の施策への要望」です。令和6年度調査では、千代田区民が最も力を入れて欲しい施策の1位は「防災対策」であり、そのなかで最も多い要望が「災害に強いまちづくり」でした。

お住いの地域の危険度をご存知ですか？

2024年元日に発生した「能登半島地震」は、M7.6、最大震度7を観測し、死者299人の大災害となりました。この地震では周期1~2秒の「キラーパルス」と呼ばれるやや短周期の地震波が観測されています。「キラーパルス」とは木造家屋に甚大なダメージを与える周期であり、能登半島地震の死亡要因の7割超が家屋の倒壊によるものと報告されています。更に8月に発生した宮崎地震は、日向灘を震源として発生したM7.1最大震度6弱を観測し「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注

意)」が初めて発表されました。

千代田区は、震災時に大規模な延焼火災の危険性が比較的少ないと認められ、区内全域を広域的な避難を要しない「区内残留地区」と指定されています。一方、能登半島地震の調査で現在注目されているのが「地盤増幅率」です。これは表面近くの地層の地震時における揺れの大きさを示したものであり、地盤の軟弱さを測ることができます。

首都直下地震は30年以内に70%の確率で発生するとか、下町は軟弱地盤だと言われますが、実際に自分の住んでいる地域はどの程度危険なのか気になることです。防災科学技術研究所では「地震ハザードカルテ」を公開しています。このカルテでは、その場所で一定期間に発生するであろう震度別の発生確率や、地盤の軟弱さなどが総合的に評価されています。地震が発生する確率を知ること、地域の防災対策や地震への備えに対する参考にもなります。ちなみに私の事務所がある神田須田町1丁目を確認してみると、30年以内に震度6弱以上の発生確率は50.4%、地盤増幅率(軟弱さ)は1.49、揺れやすさは全国の上位8%と言う事が分かりました。ぜひ皆様も、お住いの住所で調べて見て頂きたいと思います。

www.j-shis.bosai.go.jp/labs/karte/

- ①「千代田のまちづくり」に全力で取り組みます。
②皆様からの「ご相談」に迅速にご対応します。
③活動レポート「FORWARD」を定期的に発行します。
④「まちづくりシンポジウム」を定期的に開催します。
⑤国、東京都、千代田区をしっかりと「繋いで」参ります。

内田直之 5つのお約束

Think

災害に強いまちづくり千代田をつくるには？

2022年に10年ぶりに「首都直下地震」の被害想定が見直されました。今後30年でM7クラスの発生確率は70%とされており、千代田区では被害が最も大きいと予想される「都心南部直下地震」を地域防災計画上の想定地震としています。再開発等による都市の機能更新が進み、被害想定は死者77人、全壊150棟、半壊602棟と、10年前の被害想定と比較すると減少傾向にあります。帰宅困難者は約59万人、避難者は約12,600人と増えており、課題も明確となってきました。また、もひとつの大規模地震は「南海トラフ巨大地震」です。今後30年でM9クラスの発生確率も70%とされています。

災害に強いまちづくりとは、建築物の耐震化や不燃化、木造密集地域の解消、道路の整備、公園や広場の確保、防災設備の整備などが考えられます。一方、広域的な災害や複合的な災害が発生した場合、行政は機能不全に陥る可能性が想定されます。私達一人ひとりが防災意識を高め、主体的に判断・行動することが大切です。また、近所の人たちと助け合いができるよう、日頃からマンション管理組合や町会などを中心に、地域コミュニティを構築しておく事も重要となります。ハード対策とソフト対策が一体となって、はじめて災害に強いまちが創られると考えています。

高度防災都市東京、そして災害に強いまち千代田の実現は、私にとって生涯の仕事と考えています。区民だけではなく、在勤、在学、訪問者など全ての人々から被害者を出さない事を目標としています。また、被災する前からまちの在り方を検討する事前復興を推進し、より現実的で実行性のある防災政策と主体的な「自助」「共助」の在り方を、引き続き提言して参りたいと考えています。



Study

まちづくりシンポジウム2024を開催!

ベルサール神田にて「まちづくりシンポジウム2024」を開催致しました。恩師である元東京都副知事、明治大学大学院名誉教授の青山侑先生に「歴代都知事と東京の都市計画」についてご講演を賜り、私からは「千代田区におけるまちづくり動向や課題」についてご報告させて頂きました。今回も会場満席となる多くの皆様にお越し頂き、心より御礼申し上げます。千代田区や東京のまちづくりを皆様と一緒に考える機会となれば幸いです。



Study

小野伸二サッカークリニックを開催!

外濠公園総合グラウンドに元プロサッカー選手の小野伸二さん、原一樹さん、小野正朋さんが、千代田の子ども達に会いに来てくれました。ご存知の通り千代田区など東京23区にはプロサッカーチームがありません。身近な存在ではないプロサッカー選手ですが、元日本代表で天才と言われた小野伸二さんによるクリニックは、子ども達だけではなくご父兄達も大興奮でした。サッカーの技術だけではなく、サッカーの楽しさも沢山教えて頂きました。子ども達にとっては生涯の思い出になったと思います。



FC千代田・千代田サッカー協会共催

世界の街歩き

エディンバラ(スコットランド)
人口 53万人
面積 264km²

エディンバラはスコットランドの首都であり、政治、文化の中心として栄えてきた歴史豊かな古都です。古代から中世にかけて発展した旧市街と、18~19世紀に建設された新市街の美しい町並みは、世界遺産にも登録されています。その世界遺

産の象徴がエディンバラ城です。場内で最も古い建築物は12世紀初期に築かれたそうです。

日本では「イギリス」と呼ばれていますが正式には「グレートブリテン及び北アイルランド連合王国」と言い、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4つのカントリーからなる同君連合型の国家です。その中でもスコットランドは、独自の文化、言語、伝統を持つなど、強い地域的なアイデンティティを保持しており、独

立機運も冷めてはいないようです。参考までにスコットランド紙幣は、ロンドンでは使えない場合も多く、日本でも両替できませんので注意して下さい。

エディンバラ・ロンドン間は、高速列車Azumaが運行しています。日本の新幹線技術を活用し日立製作所が製造しました。Azumaとは日本語の東(あずま)から名づけられており、日本人として誇らしく思います。スコッチウイスキーを飲みながら、列車の旅も素敵ですね。

Sense



林 義規

前日本サッカー協会副会長／
早稲田大学サッカー部総監督

内田直之

まちづくりに関わる著名な方々と、内田直之との対談を連載でご紹介します。第7回目のゲストは、林 義規先生にご登場いただきます。

対談企画シリーズ7



「文武両道」の実践は容易ではありません。



勉強もしっかりやるのが
暁星の強みです！

都内屈指の進学校を サッカーの強豪校へ！

内田直之(以下、内田)…暁星学園の元サッカー部監督として著名な林義規先生との対談を楽しみにしていました。本日はサッカーや人材育成についてお話を伺い出来ればと思います。早速ですが、林先生が母校である暁星学園に赴任された当時は、どのような状況だったのですか？

林義規先生(以下、林先生)…大学卒業後、教員免許を取得し母校の暁星学園に赴任しました。都心の真ん中にあるので45×45mの小さなコートしかなく、今は人工芝ですが当時はコンクリートでした。ボールもすぐにダメになるし何しろ危なかつた。一方、元々暁星はフランス人が創ったミッションスクールなので、昼休みなどには皆がサッカーで遊んでいました。毎学期クラス対抗を開催するなどサッカーは「校技」であり、生徒が全員サッカー部でした。その中から上手い子達を集めて、選抜チームで大会に出る様になりました。

裕福なご家庭が多く、難関大学に入り稼業を継がせるなり、良い会社に入社して欲しいと思っている親御さんが殆どでしたので、本気でサッカーをやりたい生徒も、やらせたい親もいませんでした。また進学校なので、高校1年の秋で部活も辞めて受験に備えている状況でした。

内田…着任と同時にサッカー部の指導を始められたのですか。都内屈指の進学校である暁星を国内有数のサッカー強豪校に育て上げて行かれる訳ですが、大変なご苦労があったのではないのでしょうか？

林先生…練習は朝練習を6時半から、夕方は3時半から1時間半程度、試験前も例外なく、毎日練習をしました。夏休みや冬休みには遠征して、全国の強豪校と対外試合をして経験を積ませました。当初は学校や先生達、親御さんとも闘いました。一方、課題に到達しない生徒には机をグラウンドへ持ってきて勉強させたり、遠征先で空いている時間には先生が学習指導したりと、徹底的に勉強をさせました。

内田…暁星は勉強しないとサッカーの練習が出来ない事は有名でしたが、そこまでとは驚きました。進学校ですから学校やご父兄の反発も想像が付きそうです。その様な環境の中で、毎日練習し、徹底的に勉強する事は、誰もが出来る事ではないと思うのですが。

林先生…強豪校は全国から上手い選手を集めていますが、暁星は受験で入ってきた子ども達だけです。

強豪校との対外試合では試合のみならず、宿泊所での生活を通じて、挨拶の仕方から食べ方、スリッパの並べ方など、千代田区しか知らない子ども達にとっては、大きな刺激になったと思います。なにより勉強をしっかりやる事が暁星の強みです。強豪校に比べて練習量では劣るかも知れないけど「サッカーと勉強を両方本気で頑張っている、負けの訳にはいかない。」と言つてモチベーションを育てていきました。そして、先輩たちの努力を目の当たりに見て後輩達も自然に学んでいく事が、「暁星の文化」となっていました。

暁星の強みは「文武両道」

内田…サッカーも勉強も頑張っている身近な先輩たちから自然に学んでいく「暁星の文化」は本当に素晴らしいと思います。そつやつて実績を積み重ねて来られたのですか。

林先生…サッカー部はインターハイや高校選手権大会に22回もの出場を果たす一方、高校3年生まで部活を続けながら、東大、一橋、早稲田、慶應などの難関大学にも合格してきました。実績を積み重ねることで、親御さんや学校の先生達からの信頼も得ていきました。試合の直前だから練習する、試験があるから勉強するではなく、練習も勉強も毎日やる習慣をつけさせました。どちらも時間ではないので集中力が重要です。

内田…最後に千代田の子ども達やご父兄の皆様にもサッカーの指導者として、また、教育者としてメッセージをお願いできますか？

林先生…千代田区ならではの環境はありますが、工夫すれば小さなコートでも、少ない人数でもサッカーはできます。そんな環境を大人は創ってあげて下さい。また、親御さんは「考えるくせ」を子ども達に気づかせて欲しいです。勉強もサッカーも「憧れ」は強いモチベーションとなり、自ら気づける子ども達も自ら進んでやるようになります。



林 義規
1954年江東区生まれ、早稲田大学卒業。都内屈指の進学校である暁星学園サッカー部監督を務め、全国高校選手権やインターハイ出場22回を誇る強豪校に育て上げる。日本サッカー協会副会長等も歴任し、ユースチームと高校がリーグ戦で競うプレミアリーグ・プリンスリーグの創設にも貢献。趣味はお酒とサウナ。

あとがき 43年続けてきて「わからないという事がわかった!」との言葉が心に残りました。ご紹介できませんでしたが、高円宮杯や国体、指導者や部活動の在り方など、興味深いお話も沢山お聞かせ頂きました。林義規先生にはお忙しい中、お時間を頂き、本当にありがとうございました。

活動フォトギャラリー



還暦記念サッカー大会
還暦を祝い古いサッカー仲間が集まってくれました。

**バレーボール
ネーションズリーグ2024**
パリ五輪への出場を掛けた熱い戦いが、北九州で開催されました。



小野伸二元日本代表
千代田区にてクリニックを開催してくれました。技術も人柄も最高でした。

森喜朗元総理大臣
黒崎祐一支部長の会で恐れ多くも隣席でした。色々な方をご紹介頂きました。



**明治大学公共政策大学院
青山ゼミOBOG会**
終了してからが長く濃厚な青山ゼミ。青山先生とかけがえのない仲間達。

Action

千代田コラム

mAAch ecute神田万世橋

秋葉原駅を出て南に200mほど歩いた場所にあるのが商業施設マーチエキュートです。「万世橋駅」の遺構を整備し2013年にオープンしました。神田川沿いに位置し、煉瓦のアーチが特徴的で、カフェやレストラン、ショップなどが入り、観光スポットとしても人気を集めています。また、旧プラットフォームからは、中央線の電車が走る様子を間近で見ることができると、鉄道ファンにとっても魅力的な施設となっています。



参考までに、1912年に完成した「万世橋駅」の初代駅舎は、東京駅を設計した辰野金吾によるもので、赤煉瓦造りの立派なものでした。当初は主要なターミナル駅として大変賑わったそうですが、その後、東京駅や神田駅、秋葉原駅が開設された事により利用客が減少し、1943年に万世橋駅は廃止されました。

アーチ状の構造体は耐震補強され、歴史を感じる階段や天井、壁面タイルなどを活用しつつモダンな空間を表現しています。この様に歴史的な建築物を活かし有効活用することは、地域の文化や歴史を継承し、地域経済の活性化にも大変役立つと思います。

千代田コラムでは、身近にある素敵な建物をご紹介します。これからも、千代田区にある名建築を探していきたいと思っています。

Sense

Profile

内田直之(うちだ なおゆき)

1964年、熊本市生まれ B型。
国立有明高専建築学科を卒業後、トステム株式会社(現LIXIL)に入社。事業企画室長や商品企画室長、多くの開発プロジェクト責任者に就任。2011年より千代田区議会議員を3期10年勤め、議会運営委員長や予算特別委員長、会派では幹事長、政調会長を歴任。2021年東京都議会議員選挙に立候補するも次点にて惜敗。一級建築士。

●学歴
国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴
トステム株式会社(現LIXIL) 25年間勤務
U&D・パートナーズ一級建築士事務所 代表

●所属団体
一般社団法人 千代田区サッカー協会 会長
千代田区ラグビーフットボール協会 副会長
千代田区軟式野球連盟 顧問
千代田区相撲連盟 顧問
千代田区ゲートボール協会 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
社会保険労務士会 千代田統括支部 顧問
公益財団法人 京葉鈴木記念財団 顧問
自民党東京都支部連合会 都政対策副委員長
一般社団法人 東京建築士会